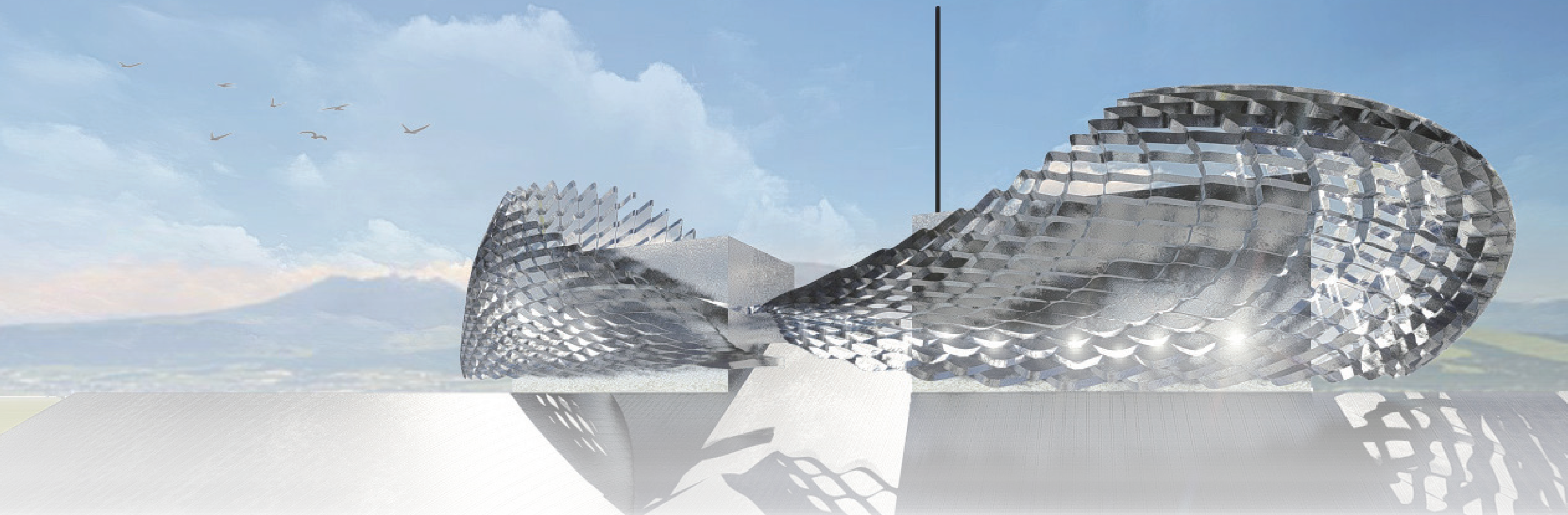
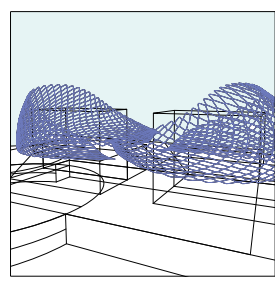


一本のリボンでつくり出すフェニックス

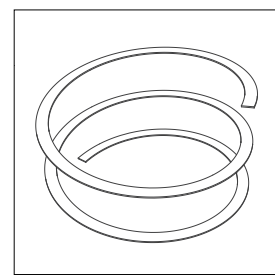
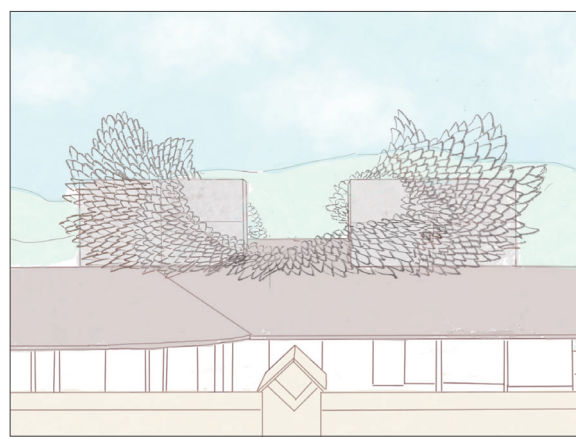
福井市問屋町は、福井を代表する産業の卸問屋が集積した場所である。ことばをかえるなら、福井の代表的な産業が他のまちへと渡っていく、飛び立っていく場所であるといえよう。そこで、これらの“渡る”“飛ぶ”と言ったキーワードから、福井市のシンボルであるフェニックスの羽を考えた。福井の産業や人々の思いが問屋町から外へ未来へと繋がっていくことを願って、ひと繋りのリボン（アルミの帯）からつくられたフェニックスの羽のようなランドマークを提案する。



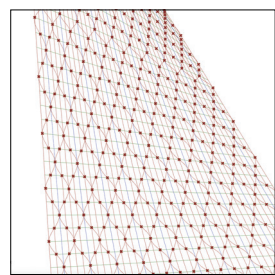
01.concept



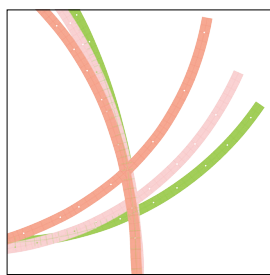
①蜃気楼のようなフェニックス
福井市のシンボルに使われているフェニックスを象る



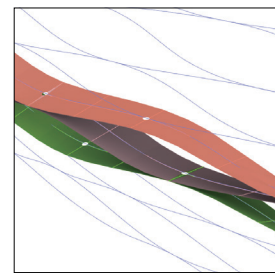
③ひと繋りのリボンから造られている



④パラメトリック・デザイン



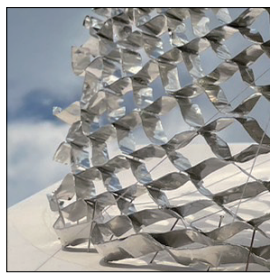
⑤デジタル・ファブリケーション



⑥自動的に定まる形

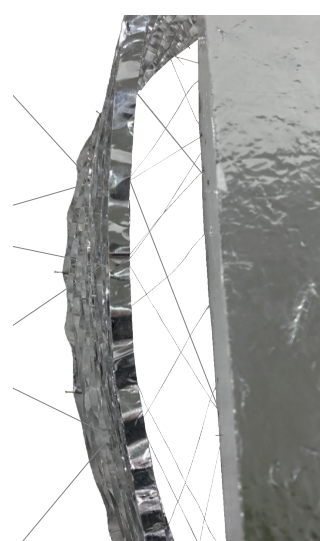


⑦デジタル・ファブリケーションにより型紙に沿って接合穴をあけ、それらの穴の位置を合わせてボルトで止めれば自動的に曲げ形状が決定される。曲げるための型は不要。

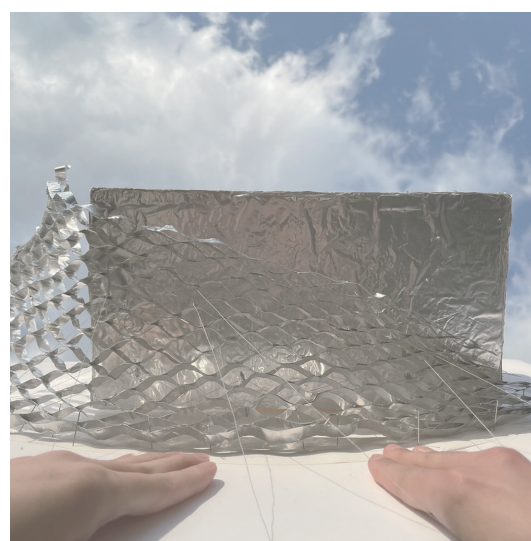


⑧形態抵抗構造
素材に適切な形を与えることで強度を得られる構造を形態抵抗構造と呼ぶ。

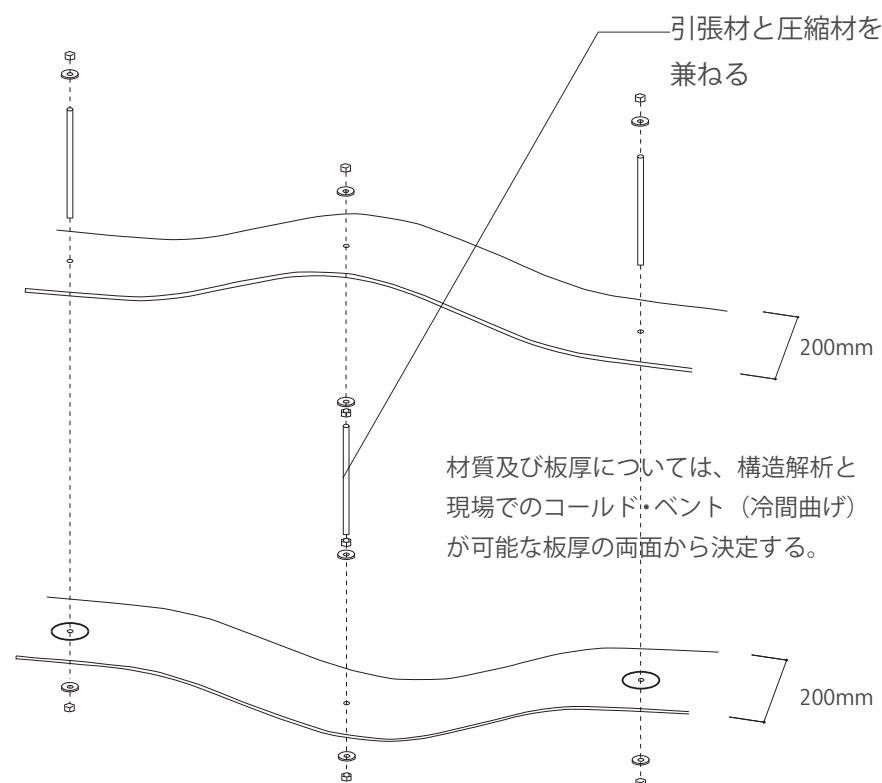
02.construction planning



支持・固定方法



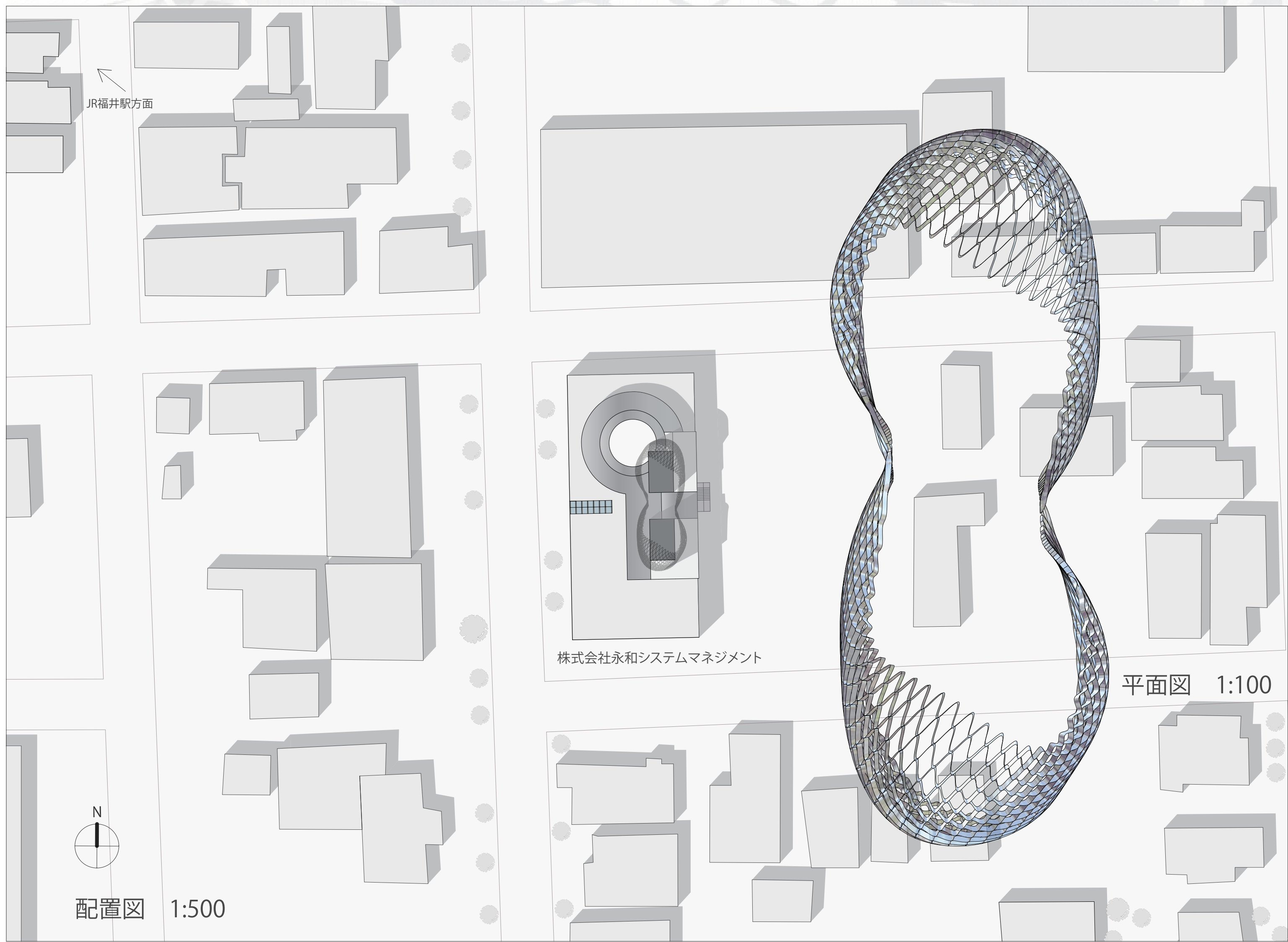
アルミでできたフェニックスの羽は、塔屋躯体の構造体および屋上のパラペット（防水立ち上がり）上部にアンカーしたテンション・ワイヤーを使って、複数の支持ポイントから各4方向に引っ張ることで、動かないように支持・固定する。



アルミの帯の接合方法



原寸大モックアップによる検討



配置図 1:500

平面図 1:100

西立面図 1:100

遠景：JR 福井駅の方角より見る

帯状の部材で構成されているため、見る角度によって見え方が異なり、遠方から望むと蜃気楼のように見える。

